



# 隔月特別講義 共済基礎

## 第11講

### ☆☆新入生のみなさんはじめまして 在校生のみなさんおひさしぶりです☆☆

この『隔月特別講義 共済基礎』は、学生総合共済についての様々な知識・情報・雑談などをお届けする記事です。「共済ってよくわからないまま加入した」という方も、この記事を読むことで共済のことがだんだんわかっていくという優れモノです。現在、連載2年半になります。過去の記事は学生委員会ウェブサイト(<http://sc.coop.nagoya-u.ac.jp/>)で閲覧可能ですから、共済のことを基本から知りたい方は第1講から読んで頂くとよいかと思います。

さいきょうたろう  
齊京太郎講師(36歳)



共済についてアツク語る男。独身。

(齊京)みなさんこんにちは、今回はちょっと難しいお話をしてみたいと思います。共済の生い立ちと歴史というテーマです。

(梅床)さっそく受講生が逃げ腰になってますけど。

(齊京)お手軽なものばかりだと歯ごたえがないかと思ってね。新入生のみんなはウェブサイトで第1講から全部読んでくるとよいよ。

(梅床)まあ11回もやってればそろそろネタも尽きてきますよね。

(齊京)ぎくっ!!...それでは今回もしっかりお勉強していきましょうね~。

(梅床)誤魔化しましたね。

ばいしょうせきひで  
梅床責任助手(26歳)



齊京のもとで苦勞している男。真面目。

### ◆学生総合共済の生い立ち◆ ~生協の理念から考える共済の成立過程~

現在の保障内容→下図のようなサイクルを繰り返しながら先輩たちの努力の積み重ねが築き上げてきたもの

#### 助け合いの精神から生まれる共済ならではの特徴

##### 学生総合共済の4つの活動

- ①共済の良さを伝えて加入を薦めるための「加入推進活動」 → 学生の実体験に基づく推進活動
- ②共済金の給付漏れをなくすための「給付推進活動」 → 学内で給付申請できる利便性
- ③ケガや病気を未然に防ぐための「予防提案活動」 → 健康パオなどの健康調査と行動提案
- ④給付事例などの最新情報を共有するための「情報共有活動」 → 学生(組合員)の声を反映した活動、制度改善

#### 助け合い(相互扶助)の精神を制度化する →

↑  
・みんなでお金を出しあって困っている人を助ける→全国規模のカンパ  
・共済は営利目的の事業ではない→安い掛け金で幅広い保障

↑  
・より良い生活、平和な世の中、安定した社会で生活したいという「生活協同組合」の理念  
・共同体の中で助け合い、理念を実現しようという行動としての現れ

←  
相互扶助による助け合いは同時に協同組合全体の安定と発展につながるといふ好循環

## ◆講義本論◆ ~学生総合共済の歴史を辿る その巻~

## 学生総合共済の制度開始と発展

- 1980年 保険の共同購入を開始
- 1981年 学生総合共済を開始
- 1982年 病気入院保障の改善
- 1983年 病気・事故入院保障を改善
- 1984年 新共済の討議開始
- 1985年 事故通院などの保障実現
- 1986年 バイク事故防止提案活動の開始
- 1987年 モーターサイクル事故負担保特約の開始
- 1988年 共済メイト発行開始
- 1989年 学生の福祉制度などの調査のために西ドイツを訪問
- 1990年 法人会員料金でのスポーツ施設利用開始
- 1991年 保障種目の充実
- 1992年 扶養者を病気で亡くした学生のための勉学援助制度が実現

## 齊京が語る!!学生総合共済の生い立ち

全国大学生協同組合連合会(全国の大学生協を統括している組織のことです。略称は大学生協連)の創立は1958年のことです。創立当初はまだ共済事業は行っていなかったのですが、将来的に共済事業を行うことは既に想定されていたそうです。組合の発展や事業の安定といった面から考えても、相互扶助活動を行うことは大切なのです。協同組合は人と人との集まりですから、人が安心して過ごすための保障制度による生活の安定が基盤にあるわけですね。時は流れ、1970年代後半、社会状況の変化に伴い、学生の生活も変わってきました。同時に、保険制度の普及に伴い、学生の保護者の保険制度に対する関心が高くなってきていました。

(齊京)次回は「歴史を辿る その式」ということで、続編をお送りします。共済基礎も回を重ねてきましたし、講義内容が少し難解になってきたかもしれませんが、ここまで読んできてもらったみなさんにならわかって頂けると思います。新入生のみなさんも是非バックナンバーを読んでみてください。次回は共済に関する超重要キーワードが登場しますのでお見逃しなく!!

今回は1980年～1992年の出来事について取り上げます(次回は続編として1992年～現在までです)。

初めは保険の共同購入だけを行っており、独自の共済は存在しなかったんですね。81年に共済が発足して、その後どんどん保障内容が追加・改善されていきました。また共済メイトも発行されるようになりました。

発足から10年程度で様々な変化がありますね。大学生が大学に在学する期間が数年であることを考えると、やはり制度改善は頻繁に行われるのが望ましいでしょう。先人の努力の跡がうかがわれます。



←共済メイト最新号の表紙。今回はカルシウムについて特集しています。毎回ページは少ないけど中身は濃いです。

このような状況の中、大学生協連は共済事業を始めました。最初は、小規模な保険制度から始めて、経験と実績を積むことで独自の共済制度を作り上げることを目的としていました。なぜかと言うと、独自の共済事業を旧厚生省に認可してもらうには、ある程度の実績が必要だったからです。

そして、1981年に厚生大臣の認可を受けて、学生総合共済が生まれました。当初は、保険と共済を組み合わせた小さな保障内容でしたが、1985年に大きく改善されて共済が独り立ちすることになりました。以後、年表のように逐次制度改善を重ねてきたわけです。

文責:齊京太郎&梅床責任(Created by だづ)